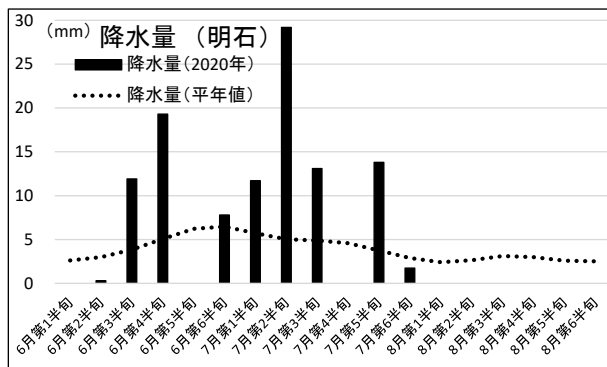
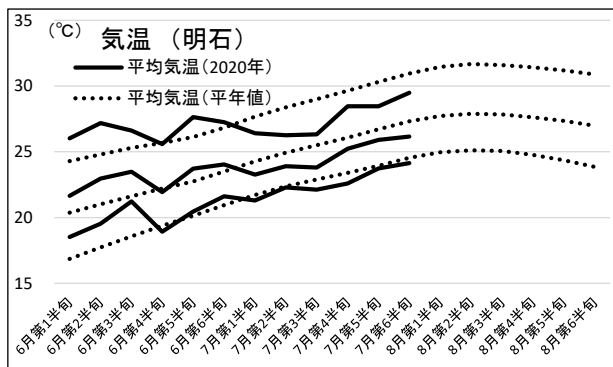


令和2年度 東播磨地域稲作気象台情報 第2号

発行：令和2年8月5日
東播磨農業改良普及事業協議会

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：6月～7月)

今年の梅雨明けは7月31日ごろで、平年よりも10日遅く、昨年よりも7日遅くなりました。気温は、7月に入り梅雨明けまで、平年よりも低く経過しました。梅雨入り(6月26日)から梅雨明けまでの降水量は、平年の2.3倍となりました。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西] の気象感応調査結果：7月25日現在)

品種	草丈	茎数	葉数
キヌヒカリ	81cm (平年比96)	356本/m ² (平年比97)	12.8枚 (平年差+0.1)
ヒノヒカリ	52cm (平年比84)	499本/m ² (平年比107)	11.5枚 (平年差-0.7)

3. 病害虫発生程度 (東播磨管内19定点ほ場での予察調査結果：8月4日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				畦畔すくい取り
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石・播磨	少	少	無	少	無	少	少	無	少	少
稲美	少	少	無	無	無	少	少	無	無	無
加古川北部	少	少	無	少	無	少	少	無	少	多
高砂・加古川南部	少	少	無	少	無	中	少	無	少	多

	病害調査							虫害調査 (見取り)			
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミスソウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石・播磨	少	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無
稲美	無	/	少	無	無	/	/	無	/	無	無
加古川北部	少	/	少	無	無	/	/	無	/	無	無
高砂・加古川南部	無	/	無	無	少	/	/	無	/	無	中

※発生・発病程度が「甚」でも時期によっては問題ありません。要防除密度の場合は赤太文字で※印を付けています。(例： **※**)

ウンカ類では、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイの発生が確認されました。斑点米カメムシ類は、17カ所中8つの定点周辺の畦畔で発生が確認されました。特に、加古川および高砂では生息密度が高い状況です。

紋枯病は、加古川北部地域で要防除密度となっているほ場があります。

コブノメイガは、高砂地域で要防除密度となっているほ場があります。

4. 今後の栽培管理について

(1) 病害虫防除

*いもち病

葉色の濃い所や日当りの悪い所では「穂いもち」に進展することがあります。ヒノヒカリなどの普通期品種では、出穂前にいもち病が目立つことがありますので、穂肥の前によく観察しましょう。発生している場合は穂肥の減肥や無施肥などの対策を、多発している場合は出穂前に治療効果の高い薬剤で防除しましょう。

*紋枯病

今回の調査では、病斑が第3葉鞘まで達していたほ場がありました。気温の高い日が続くと、紋枯病が拡がりやすくなります。前年に多発したほ場や、過繁茂のほ場は、特に注意しましょう。

*縮葉枯病・ヒメトビウンカ

「出すくみ症状」や「ゆうれい症状」の株を見つけたら、株ごと抜き取り、ほ場の外に持ち出して処分しましょう。発生を確認したほ場は、出穂前に防除を実施し、ヒメトビウンカの密度を低く抑えましょう。

*ウンカ・ヨコバイ類

今回の調査では、トビイロウンカの発生は確認されませんでした。しかし、梅雨前線と共に飛来している可能性があります。成熟期の遅い品種では、トビイロウンカの発生・増殖により、昨年のように「坪枯れ」に発展する可能性があります。坪枯れの発生は、収量や品質に大きく影響しますので、出穂前の基幹防除は必ず実施しましょう。

*コブノメイガ

幼虫は葉を縦にたんで「ツト」を作ります。食害で葉の半分くらいから先が真っ白になり、甚大な被害で田全体が白く見えます。晩植えほ場に被害が集中するので、適期防除（上位2葉の食害葉率2割以上）を実施しましょう。

*斑点米カメムシ類

多くの定点の周辺畦畔で発生が確認されています。「斑点米」の原因ですので、出穂前の畦畔の草刈りや、出穂後の薬剤防除を徹底しましょう。雑草が繁茂している場所で繁殖しますので、休耕田や池の堤等の草刈りで、生息地を減らしましょう。ただし、出穂期の畦畔の草刈りは、水田に虫を追い込むことになりますので、出穂2週間前までに草刈りを終えましょう。また、気温の高い日が続くと多発しますので、穂揃期頃に防除を実施しましょう。

◎**農薬の使用にあたっては、ラベル記載の適正使用基準を遵守し、隣接作物等へのドリフト防止に努めましょう。**

(2) 水管理・施肥管理

<キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち>

早期品種は出穂期を迎えています。出穂時は湛水状態にし、出穂後は間断灌水（田面に貯めた水がなくなったら水を入れる、を繰り返す）に切り替え、根を健全に保ちましょう。

<ヒノヒカリ>

中干しが終わったら、間断灌水で発生した根を湛水に馴染らし、丈夫で活力のある根を育てましょう。穂肥は、出穂期予測及び葉色・葉鞘のコード反応などの生育診断に基づき、適期適量を心掛けましょう。（出穂20日前 - 幼穂長2mm程度）

◎**熱中症や農作業事故から命を守るため、草刈りや施肥などは、できるだけ日中の気温の高い時間帯を避け、こまめな水分補給・休憩を取りながら、無理なく作業しましょう。**

◎**1人で農作業に出かける場合は、万が一に備えて、家族に行先や帰宅時間を告げておく、携帯電話を身に着けるなどの対応を取りましょう。**

※兵庫県農業気象技術情報サイトへのアクセス方法

兵庫県ホームページトップ画面より、「食・農林水産」⇒「農業」⇒「農産物」⇒「農業気象技術情報」と進んでください。もしくは、「農業気象技術情報」で検索して下さい。（http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000097.html）

◎次回、第3回稲作気象台情報の発表は9月上旬です。（9月8日（火）調査予定）



クモヘリカメムシ



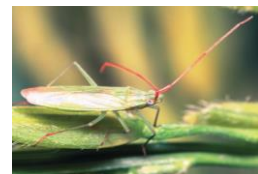
アカスジカスミカメ



オオトゲシラホシカメムシ



ホソハリカメムシ



アカヒゲホソミドリカスミ

発 行	: NOSAIひょうご東播磨事務所
調 査 協 力	: JA全農兵庫
支 援	: 東播磨農業改良普及事業協議会（構成員：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南、加古川農業改良普及センター）
お問合せ先	: 加古川農業改良普及センター 地域課 電話 (079) 421-9354

